

外国語学習指導案

指導者 JTE 城戸 知樹

1. 日時 令和3年10月29日(金) 第5校時(13:20~14:05)
2. 学年・組 第6学年1組(34名)
3. 場所 田辺市立田辺東部小学校 体育館
4. 単元名 NEW HORIZON Elementary 6 / Unit 5 : We all live on the Earth.

5. 単元の目標

地球に暮らす生き物について、短い話を聞いてその概要を捉えることができる。また、ALT に日本に暮らす生き物についてよく知ってもらうために、伝えようとする内容を整理した上で、暮らす場所や、何を食べるのか等を伝わりやすく話したり、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書いたりすることができる。

6. 関係する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。
話すこと (発表)	ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
書くこと	イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

7. 単元の評価規準

「聞くこと」「書くこと」については、目標に向けて指導は行いが、記録に残す評価は行わない。以下、本単元で記録に残す「話すこと [発表]」の評価規準のみを表として示す。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと [発表]	<知識> 生き物・自然を表す語句や Where do ~ live?, ~ live in ..., What do ~ eat?, ~ eat... の表現について理解している。 <技能> 暮らす場所や、何を食べるのか等、日本に暮らす生き物について、話す技能を身に付けている。	ALT に日本に暮らす生き物についてよく知ってもらうために、暮らす場所や、食べる食べられるというつながり等の内容を整理し、伝え方を工夫しながら話している。	ALT に日本に暮らす生き物についてよく知ってもらうために、暮らす場所や、食べる食べられるというつながり等の内容を整理し、伝え方を工夫しながら話そうとしている。

8. 言語材料

- 【語彙】 生き物 (whale, bear, ant など)、自然 (mountain など)
- 【表現】 Where do ~ live?, ~ live in …., What do ~ eat?, ~ eat ….

9. 外国語科における児童の実態／児童用タブレットの活用状況

本学級の児童の多くは、外国語科で英語を学ぶことに意欲的である。自分たちとは違う外国の文化に触れて驚いていたり、日本独自の文化を再認識して誇らしく感じていたり、素直な気持ちで学習に挑んでいる。

中学年の際には、テキストの音声や指導者の話を聞いて、積極的に反応している様子が見られ、友だちとのやりとりの際には、お互いの考えや気持ちを伝え合うことを楽しんでいた。一方で、指導者として、発表の場面をほとんど設けることができなかつたために、話すこと〔発表〕については多くの課題を残すことになった。

5年生時においては、グループでの発表場면을意図的に設定し、年度後半では、全体での発表を何度か行った。自信を持って表現を使い、相手を意識して工夫しながら話すことができる児童がいる一方で、発表することを不安に感じている児童も少なからずいるという状態であった。しかし、全体としては、「(年度当初には無理だと思っていたが) 皆の前で発表をすることができるようになった!」という達成感を持っていた。

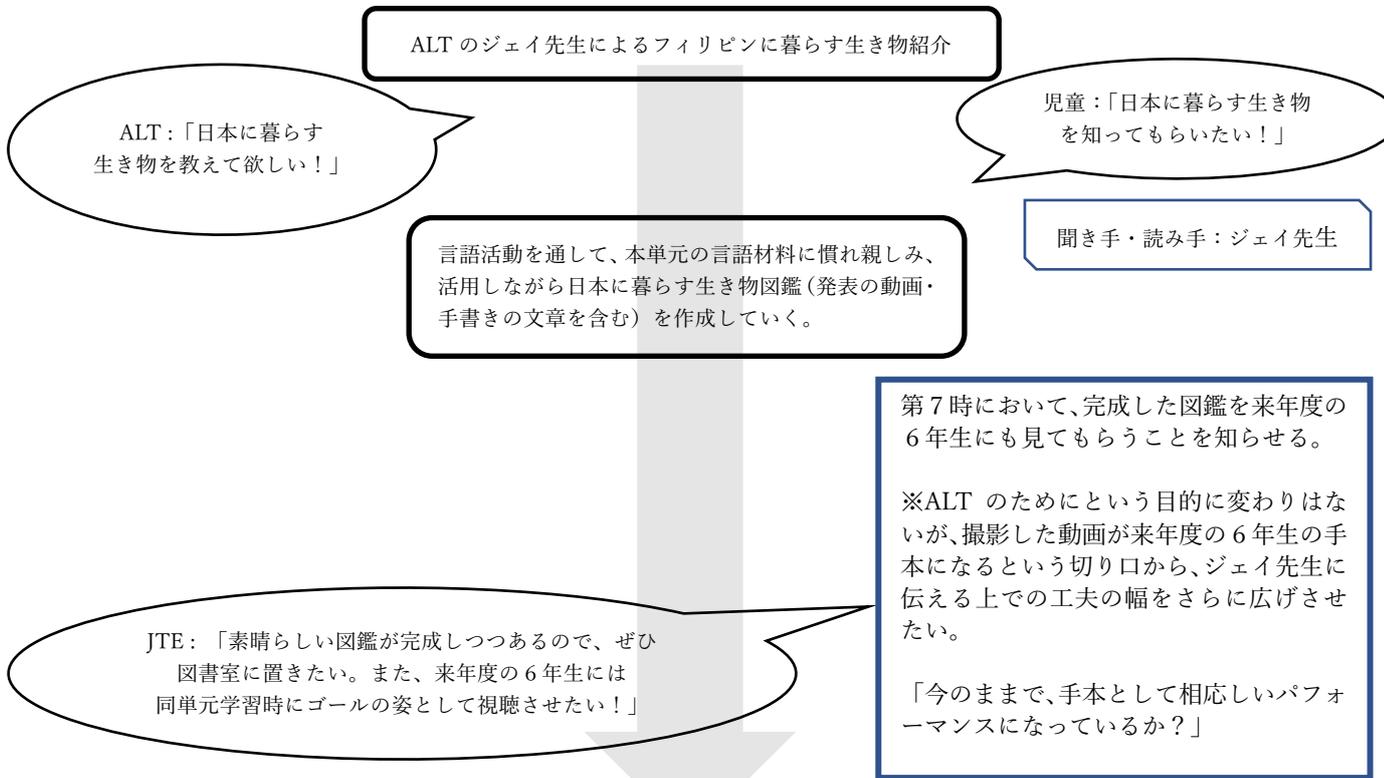
本年度、6年生となってからは、さらに全体で発表する機会を増やし、聞き手を意識しながら話すことができるよう学習を続けている。指導者としては、「もっとよくするためにはどうすればいいか」という視点を持って学習に取り組むよう常々指導を行っている。ペアやグループ、全体での言語活動を行う中で、マネできることを探し、実際に自分でやってみようとする姿を目にすることが多く、学習集団として互いを高め合う力がある。

しかし、何でも取り入れれば、「よいコミュニケーション」となるかということ、そうではない場合がある。例えば、質問を上手に交えながら話している児童Aがいた。児童Bは、それを取り入れて質問を交えながら話すようになったが、不自然なタイミングで質問をしていたり、相手が先に答えとなることを言ってしまうと聞く必要がなくなった質問をしたりしていた。外国語科の目標／思考力・判断力・表現力等の欄には「コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて」と書かれてある。「取り入れてみよう」「色々試してみよう」という雰囲気があるからこそ、児童の実態を、「これは本当に効果的なのか、場面に合っているのか」のように、一步踏み込んで考えることのできる状態へとリードしていきたい。

また、本年度は、児童用タブレットを積極的に活用しながら学習を進めている。おすすめの国を紹介する際には、ネット上にある写真を集めてポスターを完成させ、それを見せながら発表をしていた。その他にも、Google Classroom や Google Drive、Power Point 等を活用しながら授業を進めているため、児童が ICT 機器を使う技能は、非常に高いと言える。しかし、それを適切に教科で求められる能力の育成に繋げることができていない実態もある。例えば、夏休みの思い出を紹介した際には、Power Point スライドの作成と操作に児童の意識が集中しすぎ、結果、話すことがおろそかになるということが起きた。そのため、本単元では、改めて、話す能力の育成に焦点を当てる。

10. 単元について／指導にあたって

本単元においては、単元末のゴールとなる言語活動に向けて、必然性のある目的や場面・状況の設定を丁寧に計画した。それによって、児童のやる気をさらに引き出しながら指導していきたい。具体的な目的や場面・状況、ALT と JTE の働きかけ等を含めた計画をイメージ化すると以下の通りである。



ジェイ先生に日本に暮らす生き物について紹介する。伝えることは、「どこに暮らしているか」「何を食べるか」等である。日本に暮らす生き物についてよく知ってもらえるように、伝え方を工夫しながら、日本に暮らす生き物図鑑(発表の動画・手書きの文章を含む)を作成し、プレゼントする。(また、図鑑と動画は来年度の6年生のモデルとなる)



画像1 (発表時には提示資料、また、図鑑としての1ページとなるPPTのスライド)



画像2 (QRコードを読み取った際の動画の様子)

1 1. 本単元の目標・評価規準から想定する最大限のパフォーマンス内容例（指導者用）

児童は、日本に暮らす生き物について、相手に伝わるように話すことをパフォーマンス課題として与えられる。指導者としては、既習事項を最大限に活用すれば、どのような言語材料を活用し、どのような工夫を行ってパフォーマンスを行うことが可能なかをよく把握して指導に当たる必要があると考える。そこで、具体的な例を以下に示す。

ただし、これらの表現を全て使いこなしたり、うまく工夫をしたりすることを児童に対して過度に求める訳ではない。あくまで、モデルを見せたり、適切なフィードバックを返したりするために、指導者自身のパフォーマンス力を高めておくためのものである。

例1（下線部は既習表現）

Hello.

This is a raccoon dog.

Do you know raccoon dogs?

I like raccoon dogs.

Where do raccoon dogs live?

Raccoon dogs live in the forest.

What do racoon dogs eat?

Raccoon dogs eat crabs.

Crabs eat snails.

Raccoon dogs sometimes eat persimmon.

Thank you.

（聞き手を意識した目線やジェスチャー・音量等を意識しながら）

例2（下線部は既習表現）

Hello.

This is a bear.

I like bears.

Do you like bears?

Ok. What do bears eat?

Bears eat salmon and nuts.

Salmon eat shrimp.

Where do bears live? Sea? River? No.（聞き手の反応を誘うように）

Bears live in the forest.

Bears are strong.

Bears can run fast.

Thank you.

（聞き手を意識した目線やジェスチャー・音量等を意識しながら）（話す順番を入れ替えて）

12. ルーブリック【話すこと〔発表〕】

本単元で設定するパフォーマンス課題を評価するための指標として、以下のようなルーブリックを作成した。ルーブリックは、児童と共有することで、児童自身がその時々においての自分自身の達成具合を把握し、新たな目標へと繋げていけるような活用の仕方をする。

また、「場に応じた表現を用いて、伝え合う」という項目の〈工夫の例〉については、学習を進めていく中で、児童自身にその内容を考えさせ、その都度内容を練り直す。また、必要に応じて、児童と共に、「よくできる」「できる」の線引きを決定していく。

ゴールへの「みちしるべ」

	よくできる	できる	がんばろう
外国語について理解し、外国語でコミュニケーションをとる	○生き物たちが暮らす場所をたずねる Where do sea turtles live? ○生き物たちが暮らす場所を伝える Sea turtles live in the sea. ○生き物たちが食べるものをたずねる What do sea turtles eat? ○生き物たちが食べるものを伝える Sea turtles eat jellyfish.		
	などの表現を、 <u>正確</u> に使って、日本に暮らす生き物を紹介している。 ☆スムーズに、最後まで話している。	などの表現を、 <u>ほぼ正確</u> に使って、日本に暮らす生き物を紹介している。 ☆つまることもあるが、最後まで話している。	などの表現を、助けてもらいながら使って、日本に暮らす生き物を紹介している。 ☆何度もつまるが、助けてもらいながら話している。
場に応じた表現を用いて、伝え合う	ジェイ先生に日本に暮らす生き物を知ってもらうために、聞き手を意識した工夫を <u>たくさん</u> しながら、内容を紹介している。 〈工夫の例〉 ・	ジェイ先生に日本に暮らす生き物を知ってもらうために、聞き手を意識した工夫をしながら、内容を紹介している。 〈工夫の例〉 ・	ジェイ先生に日本に暮らす生き物について紹介しようとしているが、聞き手を意識した工夫をしていない。
進んで取り組む	日本に暮らす生き物を知ってもらうために、聞き手を意識して、より工夫しながら、内容を紹介しようとしている。	日本に暮らす生き物を知ってもらうために、聞き手を意識して、工夫しながら、内容を紹介しようとしている。	ジェイ先生に日本に暮らす生き物について紹介しようとしているが、聞き手を意識した工夫をしようとしていない。

※編かけ部分については、児童と共有する。

1 3. 単元計画（8時間）

単元計画については、「話すこと [発表]」に焦点をおいて記述する。また、各時における活動内容等の列は、表が簡潔なものとなるように、「目標」「教科書の活用場面」「ICT を活用した学習場面」「ICT を活用した具体的な活動内容」の4点のみを記載している。

時	活動内容等 ◆ 目標 ○ 教科書の活用場面 【】 ICT を活用した学習場面 ・ ICT を活用した具体的な活動内容	評価			
		知 技	思 判 表	態 度	評価基準〈評価方法〉
1	<p>◆地球に暮らす生き物について、暮らす場所や、何を食べるのかなどの短い話の概要を捉えることができる。</p> <p>○pp.42-43 の紙面上に見える生き物について話し合う。</p> <p>○Over the Horizon, Do you know?</p> <p>【教員による教材の提示】 ・フィリピンの生き物について (PPT) の話を聞く。</p>				<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、指導者が児童の学習状況を確認する。</p>
2	<p>◆地球に暮らす生き物について、暮らす場所や、何を食べているのかなどの短い話の概要を捉えたり、暮らす場所のことを話したりすることができる。</p> <p>○Let's Listen①</p> <p>○Let's Try②(どこに暮らしているのかのみ扱う)</p> <p>○Let's Read and Write①</p> <p>【教員による教材の提示】 ・ゴールの姿のモデル (動画) を視聴する。</p>				<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、指導者が児童の学習状況を確認する。</p>
3	<p>◆食物連鎖について考え、何が何を食べるのかを話すことができる。</p> <p>○Let's Listen②</p> <p>○Let's Try②</p> <p>○Let's Read and Write②</p> <p>【調査活動】 ・インターネットを用いて、日本に暮らす生き物について情報を収集する。</p>				<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、指導者が児童の学習状況を確認する。</p>

4	<p>◆日本に暮らす生き物について、暮らす場所や、食べる食べられるというつながり等の内容を整理し、PPTのスライドを作って、話すことができる。</p> <p>○Small Talk “Where do lions live?” ○Enjoy Communication Step 2, Step 3</p> <p>【調査活動】 ・インターネットを用いて、日本に暮らす生き物について情報を収集する。</p> <p>【表現・制作】 ・PPTを用いて発表のための資料を制作する。 <u>手順</u>：Google ドライブの共有フォルダから元となる PPT データをタブレット端末内に DL → オフラインで編集</p>	<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、指導者が児童の学習状況を確認する。</p>		
5	<p>◆日本に暮らす生き物について、暮らす場所や、食べる食べられるというつながり等の内容を整理し、PPTのスライドを使いながら、話すことができる。</p> <p>○Enjoy Communication Step 2, Step 3 ○Let’s Read and Write③</p> <p>【表現・制作】 ・PPTを用いて発表のための資料を制作する。 <u>手順</u>：端末内で編集した PPT ファイルは共有フォルダにアップロード（指導者に提出・資料を共有）</p> <p>【発表や話し合い】 ・スライドを用いて発表する。</p> <p>【協働制作】 ・発表の様子を撮影し、図鑑用の動画を制作する。</p> <p>【個に応じる学習】 ・制作した動画を共有フォルダにアップロードし、学習履歴を残す。また、友だちや指導者からのコメントを通して、改善点を把握する。</p>	発		<p>◎日本に暮らす生き物について、Where do ~ live?, ~ live in …., What do ~ eat?, ~ eat… 等を用いて、暮らす場所や、食べる食べられるというつながりを話している。〈行動観察〉</p>
6	<p>◆ALT に日本に暮らす生き物についてよく知ってもらうために、暮らす場所や、食べる食べられるというつながり等の内容を整理し、伝え方を工夫しながら話すことができる。</p> <p>○Small Talk “What do penguins eat?” ○Let’s Read and Write④</p>			

	<p>【発表や話し合い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドを用いて、相手に伝わるように発表する。 <p>【協働制作】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の様子を撮影し、図鑑用の動画を制作する。 <p>【個に応じる学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作した動画を共有フォルダにアップロードし、学習履歴を残す。また、友だちや指導者からのコメントを通して、改善点を把握する。 		<p>発</p>	<p>◎ALT に日本に暮らす生き物についてよく知ってもらうために、暮らす場所や、食べる食べられるというつながり等の内容を整理し、伝え方を工夫しながら話している。</p> <p>〈行動観察〉</p>
<p>7 【本時】</p>	<p>◆ALT に日本に暮らす生き物についてよく知ってもらうために、暮らす場所や、食べる食べられるというつながり等の内容を整理し、伝え方を工夫しながら話すことができる。</p> <p>【発表や話し合い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドを用いて、相手に伝わるように発表する。 <p>【協働制作】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の様子を撮影し、図鑑用の動画を制作する。 <p>【個に応じる学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成した動画を確認し、学習内容に対する自らの達成具合を把握する。 	<p>発</p>	<p>発</p>	<p>◎ALT に日本に暮らす生き物についてよく知ってもらうために、暮らす場所や、食べる食べられるというつながり等の内容を整理し、伝え方を工夫しながら話している。</p> <p>〈行動観察〉〈動画分析〉 〈ふり返り記述分析〉</p> <p>◎日本に暮らす生き物について、暮らす場所や、食べる食べられるというつながり等の内容を整理し、相手を意識して、伝え方を工夫しながら話そうとしている。</p> <p>〈行動観察〉〈動画分析〉 〈ふり返り記述分析〉</p> <p>※前時までより改善が見られた場合は記録に修正を加える。</p>
<p>8</p>	<p>◆日本に暮らす生き物について、ALT に伝わるように、例文を参考にしながら、暮らす場所や、食べる食べられるというつながりを書くことができる。</p> <p>○Let's Read and Write①～④ (図鑑用の清書用紙に書き写す。動画の QR コード化・清書用紙への貼り付け等は、朝学の時間に行なっておく)</p> <p>【協働での意見整理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の友だちの完成動画を視聴し、互いのよさをコメントし合う。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、指導者が児童の学習状況を確認する。</p> </div>		

14. 本時の授業指導案 7/8時間

目標：ALT に日本に暮らす生き物についてよく知ってもらうために、暮らす場所や、食べる食べられるというつながり等の内容を整理し、伝え方を工夫しながら話すことができる。

時間	児童の活動	指導者の活動 / 留意点
2分	・ Warm-up Talk	・ 本時と関係のない定型あいさつは避け、本単元や本時に関わりのある事柄からやりとりを行う。
3分	・ Sounds and Letters -名称と音を確認し、発音する。 -“d”を書き写す。	・ 本単元やその場に合った語彙と関連付ける。
5分	・ 日本に暮らす生き物紹介練習① ・ 表現の復習をする。	・ 復習より先に活動（練習①）を行い、「言えない表現」を自覚させる。その後、全体で表現の復習を行う。
3分	・ 動画撮影の目的・場面・状況を確認する。 ・ めあてを確認する。	・ 撮影した動画を含む図鑑が、来年度の6年生のモデルとなることを知らせる。
ジェイ先生に日本に暮らす生き物を知ってもらうために、工夫しながら紹介しよう！		
5分	・ 日本に暮らす生き物紹介練習② -互いにアドバイスをしながら紹介しあう。	・ 机間指導の際に、児童が困っているポイントを探しておく。
5分	・ 伝え方の工夫について共有する。	・ よい工夫については全体で共有し、そのポイントをまとめる。 ・ ゆさぶる→「それで伝わるか？」 ・ 困っているポイントについては全体で取り上げて、考えさせる。
14分	・ 発表を行い、動画を撮影する。（3人グループ）	・ 撮影がうまくいくよう支援する。 -タブレットの不具合については替えを用意する。 -マイク部分を手で押さえていないか気を配る。
※評価		
3分	・ 完成した自分の動画を確認する。 ・ 代表児童の動画を視聴する。	・ 数名の動画を紹介する。
5分	・ ふり返りを書く。	・ 児童が活動を行う中で工夫していた点・成長した点を褒める。 ・ ふり返りの視点として、ルーブリックを活用させる。また、成長したのであれば、どのようにすることで成長するに至ったのかを意識して書かせる。
※評価		

（評価基準）＜評価の方法＞

◎ALT に日本に暮らす生き物についてよく知ってもらうために、暮らす場所や、食べる食べられるというつながり等の内容を整理し、伝え方を工夫しながら話している。 〈行動観察〉〈動画分析〉〈ふり返り記述分析〉

◎ALT に日本に暮らす生き物についてよく知ってもらうために、暮らす場所や、食べる食べられるというつながり等の内容を整理し、伝え方を工夫しながら話そうとしている。 〈行動観察〉〈動画分析〉〈ふり返り記述分析〉

※児童が話している様子の分析から、評価の記録を残す。前時までより改善が見られた場合は記録に修正を加える。